

## 令和元年度の研究の成果と課題

今年度の研究では、自力解決場面での工夫・全体交流（練り上げ）場面での工夫を提案する授業が多く見られた。総括すると、以下のような成果と課題にまとめられる。

### 全体に共通する成果

#### (1) 自力解決場面での工夫

- ・自力解決場面では、既習事項を掲示したりヒントカードを用意したりすることで、児童は見通しをもち、意欲的に自力解決に取り組んでいた。また、具体物や視覚に訴える教材を用意することで、児童の思考を助けていた。
- ・自力解決の中盤で時間を区切って「立ち歩きタイム」を設けたことで、児童は自分の考えを確かめたり、自分とは異なる考え方に気付いたり考えが広まったり深まったりさせることができていた。

#### (2) 全体交流（練り上げ）場面での工夫

- ・話型を示したことで、自分の考えを言葉で書いたり発表したりする際の助けになっていた。
- ・自分と同じ考えにネームカードを貼り付けることで、参加意識が高まった。また、付け足しの説明が出やすくなり、分かりやすい説明につながった。

#### (3) その他

- ・導入場面で、自分たちに関する身近なことを課題としたり少しずつ課題を見せるなど課題提示の方法を工夫したりすることで、児童は課題に興味をもち、主体的に取り組んでいた。
- ・書画カメラを活用したことで、児童の活動時間が確保され、じっくり自力解決に取り組ませることができた。

### 全体に共通する課題

#### (1) 全体交流（練り上げ）場面での工夫

- ・様々な方法で自力解決をした児童のために、複数のネームプレートを用意しておく必要がある。
- ・どの部分を説明しているのかが全体に分かるよう、発表する際は該当箇所を指し示したり指示棒などを活用させたりする必要がある。
- ・交流では、相違点だけでなく、似ている点にも目が向くように観点を与える必要がある。また、教師は、考え方についてよさを評価し、価値付けていくようにする。

#### (2) その他

- ・振り返り場面では観点を与え、児童が自分の成長を感じることができるようにしていく。また、教師はそれを活かして見取り、評価していく必要がある。